\ローカルがいい毎日/

二〇二〇

おのえきTIMES

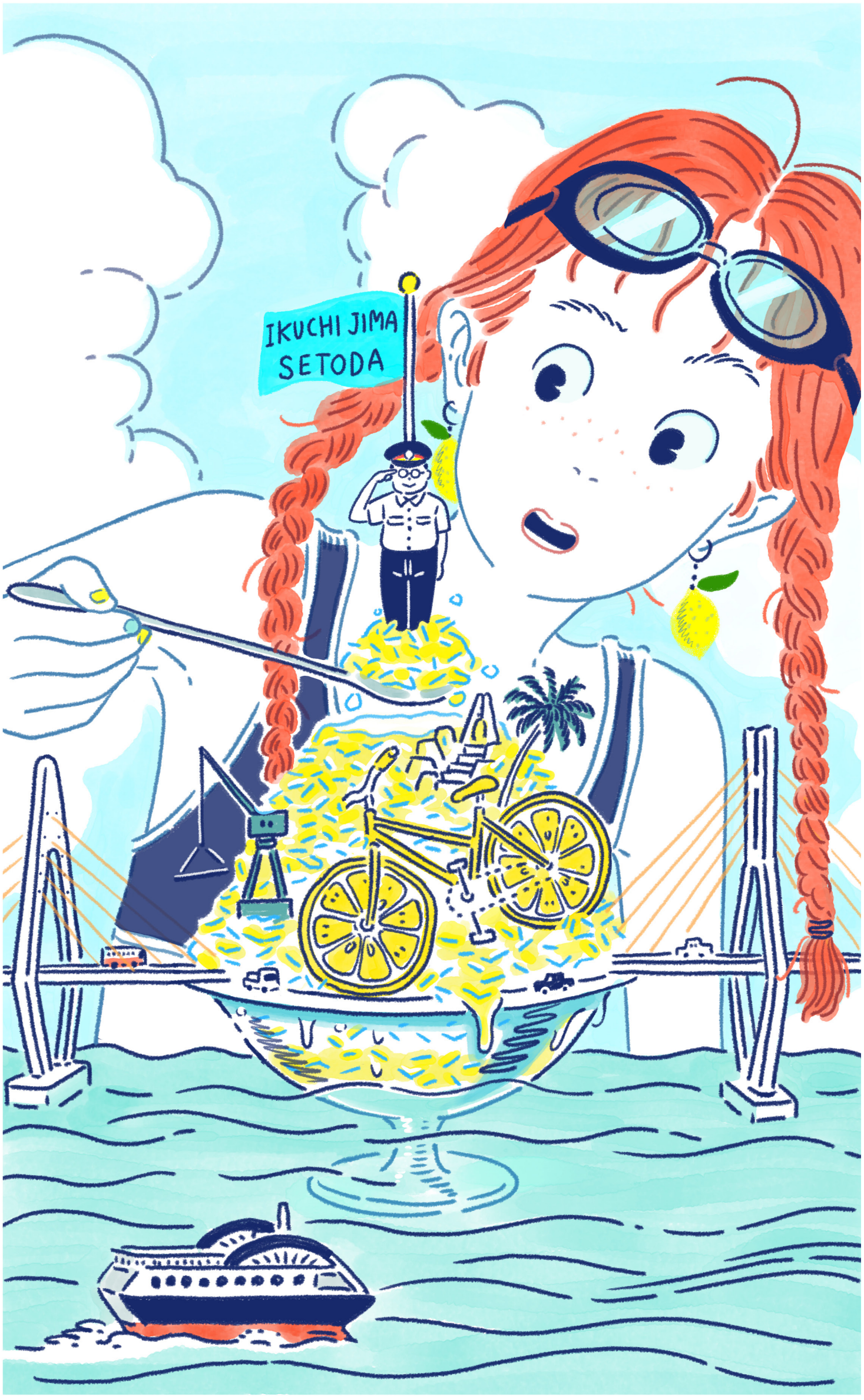
特別号

尾道駅発！ 瀬戸内を電車と船でつなぐ新しい周遊観光

鉄道会社が考えるこれからのまちづくり

瀬戸内しまなみ海道「生口島 瀬戸田」で挑む

50年後の島の未来を描く人々



かき氷をとかすほどアツい想いがつまったレモンの島。

鉄道会社が考える これからの地域づくり

まちとまち、人と人をレールでつなぐJR西日本。JRといえば、鉄道や駅といったイメージが強くありますが、「誰もが訪れたくなるまち、誰もが住みたくなるまちと沿線」をつくるさまざまな取り組みを進めています。尾道駅のリニューアルをかわきりに、JR西日本が注目し、力を注ぐ「生口島 瀬戸田」。島の未来を描くワークショップの開催、明治初期の屋敷をリノベーションしたホテルの開業、サイクルシップの就航など、地域の活性化に向けた動きが始まっています。地域づくりに取り組むキーパーソンに、瀬戸田の今とこれからを語ってもらいました。

せとうち パレット プロジェクト

JR西日本の鉄道事業と、地場産業の振興や地域の活性化を目指す創業事業が連携し、瀬戸内エリアのさらなる価値向上を目指す「せとうちパレットプロジェクト」。バラエティに富んだ観光列車、駅舎や駅ビルなどの施設、ホテルや宿の整備、地域の恵みを生かした新商品の開発、プロモーションなどに取り組んでいる。地域の文化や産業、美しい自然に新しいアイデアや視点を掛け合わせることで、これまでにない魅力を続々と生み出している。

2020年10月3日、呉線および山陽線（宮島口～尾道駅間）を走る新しい観光列車「etSETOra（エトセトラ）」がデビュー。

1

3

2

1.瀬戸内エリア周遊の新拠点として2019年春に生まれ変わった尾道駅。尾道水道を一望できる展望デッキのほか、ホステルや飲食店などがそろう。2.尾道と瀬戸田を結ぶサイクルシップ「ラズリ」。自転車を約50台積載できるほか、自転車整備工具の貸し出しなどサイクリストへの想いであふれた船。3.尾道発の自転車ブランド「BETTER BICYCLES」のスポーツバイクが、JR西日本オリジナルのレモンカラーに変身。尾道駅、瀬戸田、福山の各所で貸し出しており、新幹線・航路・レンタサイクルがセットになったお得なきっぷも限定発売中。

岩崎 優

JR西日本 岡山支社
ふるさとおこし本部長

地域との連携で瀬戸内の旅をもっと豊かに！

JR西日本が取り組むまちづくり事業

JR西日本がまちづくり事業を始めたのは2015年頃。「住みたいまち、訪れたいまちが増えれば、人が動く」という考えのもと、将来的な事業の成長を見据え、沿線の価値向上に尽力しています。まちづくりは、私たちの力で実践できることではありません。地元のみなさまの協力が不可欠。私が所属する「ふるさとおこし本部」の役割は、地域のみなさまと一緒に地域おこしをすること。観光スポット、伝統工芸、食といった地域が持つ魅力を発掘し、魅力を高めながら発信する「せとうちパレットプロジェクト」もそのひとつ。様々な取り組みをしていますが、地域のみなさまと一緒になって考え、新しい商品やサービスが生まれた時が、この仕事をしていて最も楽しく嬉しい瞬間ですね。

瀬戸内エリア周遊の拠点となる尾道駅

2019年3月にリニューアルした尾道駅。輸送サービスを提供する単なる鉄道の駅ではなく、食や暮らしなど生活全般のサービスを提供しています。駅が鉄道利用以外のお客さまにも楽しんでいただける場を目指すことは、当社の持続的な発展に不可欠な取り組みです。

さらに、尾道駅は瀬戸内観光において、陸上・海上ルートのハブとなる場所。「m HOSTEL」に拠点を置き、しまなみ海道や広島、岡山、山陰への旅を展開できます。

鉄道と船で提案する新たな島旅

瀬戸内エリアの中でも、瀬戸田は重要な存在。しまなみ海道は日本で唯一、海峡を自転車で渡ることができるという圧倒的な魅力があります。少し不便に感じられるかもしれませんが、独特な風土や文化を通じて、非日常を感じられるのも島旅の醍醐味。船で島へ渡るという移動手段自体も、アクティビティとなりえます。あえて島に足を伸ばすことによって、滞在時間が増え、地域での消費拡大も期待されます。

2018年秋には、尾道―瀬戸田をつなぐサイクルシップ「ラズリ」。2020年秋には、広島（宇品）―とびしま海道―しまなみ海道（瀬戸田）―三原をつなぐ観光型高速クルーザー「SEA SPICA（シースピカ）」が就航。そして、せとうちエリアの魅力を体験する新たな観光列車「etSETOra（エトセトラ）」の運行がスタートします。海路と陸路を整備することで、瀬戸内が「大周遊エリア」になります。

また、JR西日本が自治体・大学と連携した産官学プロジェクト「瀬戸内カレッジ」では、オリジナル自転車「SHIMANAMI LEMON BIKE」が誕生。若い女性をはじめとするライトなサイクリング需要の拡大に応えるべく、国産レモンの生産高日本一を誇る瀬戸田をイメージしたレモン色のオシャレな自転車です。鉄道、船、レンタサイクルを組み合わせて、島旅を楽しんでもらいたいです。

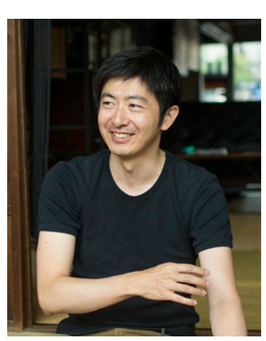
旅や観光とは直接的な関係がないように思えるかもしれませんが、「JA三原」と連携協定を結び、瀬戸内のレモンを国内外へPRする活動も始まっています。

瀬戸内や瀬戸田の魅力はまだまだたくさんあるはず。現在は、瀬戸田で実施されている「しおまちとワークショップ」に参加していますが、地域のみなさまと協力して、新しいサービス・企画を生み出していきたいです。

想いをひとつに！ みんなの夢が叶う 地域をつくる

内藤 真也

せとうちDMO
JR西日本 広島支社地域共生室
総合企画本部(MaaS推進部)



鉄道の運転士から〝まちづくり〟へ

ＪＲ西日本入社後は、車掌や運転士などの現場業務を担っていました。３０歳を機にもっと社会に貢献したいと想い、プロジェクトや予算のマネジメントを担当。現在は、広島支社の地域共生室とせとうちＤＭＯを兼務しています。せとうちＤＭＯでは、地方創生観光ファンドの資金を運用するのが私の仕事です。そして、地域共生室は地域づくりのためなら何でもやる組織。とはいえ、地域を育て、盛り上げていくためには、地域の自治体や事業者と同じ方向を向いて取り組むことが大切です。訪れたいまち、住みたいまち、そして会いたい人がいることで自然と移動は生まれ、それはＪＲにとって大きなメリットになります。

地域が一丸となり未来へ向かう瀬戸田

瀬戸田でプロジェクトが動き始めたきっかけは「堀内邸という豪商屋敷を地域の財産として活用したい」と相談を受けたことでした。堀内邸はホテルとして生まれ変わることが決まり、そのコンセプトは「地域とホテルの垣根を取り払うこと」。ホテルに滞在しながら、地域へ出かけることでまちとの交流が生まれます。そのため、地域全体が想いを一つに、ホテルが建つしおまち商店街を盛り上げていく必要があると思いました。

ここで事業をしたい人、何かに挑戦したい人たちの夢が叶えられるような地域づくりをしよう。そんな想いをもとに、行政や商店街のみなさんと一緒に始めたのが「しおまちとワークショップ」。地域の方々と1年ほど構想を練りました。外から来て勝手に進めるのではなく、しっかり相談しながら地域の方のペースに合わせて時間をかけて進めることを大切にしています。まずはみんなで同じ方向を向く、ということをちゃんとやりたかったんです。地域が抱える課題は何か、どんなポテンシャルがあるかを見極め、そこで生まれたアイディアを実現していく。昨年は「住みたい街、しおまち。レモンとアートと人情と。」という商店街のビジョンが見えてきました。今年はデザインの視点から商店街を賑やかにしていきます。

子どもたちが将来帰ってきたくなるようなまち、新しいチャレンジができるまち。それを実現するために事業を誘致し、ユニークな人材が活躍できるようにするのが私の役割です。

訪れたくなるまちは人をハッピーにする

瀬戸田は、車、自転車、船などいろんな交通手段で訪れることができる場所。滞在を促す旅を提案できる最適なモデルです。

そして、何よりの魅力は、外の人を自然に受け入れてくれる風土があること。これまでの歴史の中で、外部との交流が当たり前にあったからでしょうか。ワークショップには、個人も企業も、地元の人も外部の人も、みんなが瀬戸田に可能性を感じ参加してくれていて、関わってくれる人みんな、瀬戸田が好きで楽しいと言ってくれます。

今、瀬戸田の町は堀内邸をはじめ、各所で工事が実施されています。でもそれは嫌な騒々しさではなく、〝次に向かう何かが生まれている〟という力強い生命力を感じます。未来に向かってワクワクする感覚を地元の方々も感じてくださっているとと嬉しいです。

みなさんが夢を叶える場所になるよう私も力になりたいです。さらに、行きたいまち、住みたいまちにしたい。瀬戸田を訪れた方に「いつかここに住みたい」「また来たい」と思ってほしいです。訪れたいまちが増えれば、みんなハッピーになるはず。瀬戸田はもちろん、たくさんの地域を元気にしたいです。

しおまちとワークショップ
https://shiomachi.jp

しおまち商店街を中心に、瀬戸田の地域活性化を目指すワークショップ。今年のテーマは「商店街のデザイン」。デザイン講義や空き物件のシャッターを塗りかえるワークショップを開催する。

1

2

3

1.明治初期に建てられた豪商屋敷・堀内邸は改築してホテルへと生まれ変わる。2021年に開業予定。2.多種多様な人々が参加する「しおまちとワークショップ」。3.尾道と生口島を結ぶサイクルシップ「ラズリ」などが停まる瀬戸田港。

瀬戸田を愛し 瀬戸田に関わる みんなが主役

砂田 剛伸

尾道市役所 瀬戸田支所
しまおこし課 しまおこし係 係長

グリーンスローモビリティー

「しおまちとワークショップ」に参加した本四バス開発株式会社が、ワークショップでの企画提案を踏まえて運行。尾道市とJR西日本などが連携し実現した期間限定プロジェクト。

瀬戸田の一員としてがんばりたい

今回のプロジェクトにおける私たち行政の役割は、内藤さんをはじめ外から来られた人と地元の人とをつなぐこと。地元の人が大切にしたいもの・ことを守りながら、みんなが同じ方向を向いていけるよう、クッション材になれたらと思っています。

ワークショップには、個人、企業、地元の人、Uターン・Iターンの人…年齢も職業も多種多様な人が参加しています。それぞれの立場で瀬戸田について考えてくれることが本当にありがたく、感謝しかありません。今の瀬戸田には、本気でまちのことを考える人たちが集結し、地元の人も「やってみたい」「何かしたい」という思いがどんどん前に出てきているような気がします。一人ひとりが、５０年先、１００年先のまちのために何ができるかを考え、形にしようとしています。小さなまちだからこそ、一丸になれる。地域のネットワークや人間関係がすごく役立っています。

私は瀬戸田で生まれて瀬戸田で育ち、現在も瀬戸田で暮らしています。私を含め、まちのみんなはこの島が大好き。地域に育ててもらったのだから、人が何かをしてくれるのを待ったり、何かをしてあげるのではなく、瀬戸田の一員としてがんばりたい。みんなが主役です。ワークショップをはじめ、まちづくりに関わることはとにかく楽しいし、私にとってはライフワークのようなもの。仲間を増やしながら、いろんな人たちを巻き込んでいきたいですね。

交流を受け入れるおおらかな島の人々

北前船が行き交い人の往来がはるか昔からあったこのまちには、地元を大切にしながら、地域外の人を受け入れてきた歴史があります。観光客はもちろん、造船業のために遠方から来る職人たちを受け入れ、移住者の人々とともにまちがつくられてきました。船が人、もの、文化を運び、〝交流〟することが文化の一つとして当たり前にあったんです。

もっと多くの方に瀬戸田を知っていただき、島の魅力を感じてもらいたいです。島の暮らしに触れて、「また来たい」「もっとここで過ごしたい」と思ってもらえたら嬉しいです。瀬戸田だけじゃなく、しまなみ海道全体にこの熱が広がることを願っています。

古きを守りながら 新しきを受け入れ 共に創り上げていく

山口 広三

お食事処 わか葉
しおまち商店街の輪 会長

お食事処 わか葉

瀬戸内海で水揚げされたタコやアナゴを使った料理が楽しめる和食店。代々伝わる秘伝のタレで味付けた「アナゴの箱寿司」、瀬戸田産のレモンをたっぷり浮かべた「レモン鍋」がオススメ。

商店街が結束し未来を見据えて活動

しまなみ海道を訪れるサイクリストの増加を受け、移住者や若手メンバーも加わった「しおまち商店街の輪」は２０１９年に発足。堀内邸がホテルになると聞いた当初、「このままでは商店街が取り残されたまま、まちが変わってしまうかもしれない」という危機感を感じ、商店街が一丸となって取り組もうという想いがありました。

初めてお会いした時に内藤さんが語ってくれた「５０年先を見据えたまちづくり」というビジョンがとてもしっくりきたんです。じっくりと関係性を築いてくれたし、「歴史や景観を維持しながら変化していきたい」という私たちの考えにも共感してもらえたことで、やる気のスイッチが入りました。古いものを守りながら、新しいものを受け入れる柔軟さが瀬戸田にはあると思います。

地元の人が誇れるまち・島にしたい

「しおまちとワークショップ」にも参加していますが、飽きる暇がないほど面白いんです。斬新なアイデアが次々と生まれ、それを何とか実現しようと真剣に取り組む熱量。目先の利益を追うのではなく、地域に寄り添い、共に創り上げていこうとする本気度を感じています。地元の人も変化することへの希望と期待を持ち、主体的に参加しています。受け身ではなく、私たち地元メンバーがぶれることのない意志を持つことも大事。すばらしいメンバーと出会い、瀬戸田が変わろうとする瞬間に立ち会えていることは嬉しく、まるで夢を見ているようです。

「しおまち商店街の輪」もワークショップも2年目を迎え、今年は組織を固めていく年。せとうちＤＭＯや行政の担当者が変わることがあったとしても、揺るがない組織をつくっておきたいです。このプロジェクトのゴールがどこなのか、正解が何なのかはまだ分かりませんが、島を訪れた方々からほめていただく機会が多く、島の自然、まちの雰囲気、島民の人柄は、自分たちが思う以上に人を癒せるのかもしれないと、わがまちの魅力を再認識しています。進学や就職で島外に出たとしても、帰ってきたいと思える島に、出身者が誇れるまちにしたい。そして、未来を考え、良いと思うことを実践し積み重ねていく中で、地元の人にも「まちが良くなった。元気になった」と思ってもらえるまちづくりを続けていきたいです。

尾道駅を起点にはじまる 鉄道と船を組み合わせた旅

JR尾道駅
岩本圭司　駅長

瀬戸内に暮らす地元の人にとって、日常の中に船があるのは当たり前のことかもしれませんが、「船に乗る＝旅」と感じる人はたくさんいるのではないでしょうか。瀬戸田でさまざまなプロジェクトが活発に動き、新たな魅力が生まれることで、電車と船を組み合わせた旅を楽しむ人はさらに増えるでしょう。瀬戸田の良さは一度訪れただけでは体感しきれないと思います。ぜひ泊まって、ゆっくりと堪能してもらいたい。船から眺める尾道のまちも最高です！駅員は、島を訪れる人々を尾道駅で迎え、そして見送ります。快適に利用していただけるよう、あくまで黒子に徹するのが本分ですが、尾道で働くことに誇りを感じながら業務を全うしたいと考えています。

電動アシスト付自転車でスイスイ！ 快適な自転車でしまなみ海道をお楽しみください！

しまなみ E-BIKE らく旅パス

広島県誘客促進支援事業を活用した割引プラン

大人（中学生以上）

2,000円（割引後） 2021年2月末まで

4,500円（割引前）

パスに含まれているもの

●E-BIKEレンタル（1日間）●駅前渡船乗船（1回）
●瀬戸田航路乗船（1回）

※9月末までは中国5県と愛媛県在住の方限定

販売元・お問合せ：おのなび旅行社（一般社団法人尾道観光協会）
TEL：0848-36-5495　https://www.ononavi.jp/fan/onotabi/

JR PREMIUM SELECT SETOUCHI

瀬戸内育ちの果実でつくった「瀬戸田レモン CHU-HI」

税込180円／1本

しまなみ海道の中央に位置する瀬戸田町は、生口島と高根島からなる小さな町。日当たりのよい急斜面がレモンの栽培に最も適したこの島で、太陽の光をふんだんに浴びて育った瀬戸田レモンのストレート果汁のみを使用した、すっきり爽やかなチューハイです。

セブン-イレブン ハート・インJR尾道駅店
オンラインショップ「岡山駅ナカお土産ショップ」で発売中

ご購入はこちらから

三原農業協同組合とJR西日本岡山支社は、瀬戸田エリアのさらなる地域活性化を実現することを目的に「レモン等瀬戸田地域振興に関する協定」を締結しました。
詳しくは「ふるさとおこしプロジェクト」HPへ。

https://jr-furusato.jp

地域のものを選び集めた尾道のパントリー「おのまる商店」のオンラインストアがスタートしました！

尾道や広島などの瀬戸内地域から、美味しくて安心して食べられるジャムやお菓子といった食品、調味料など、暮らしに身近なものをスタッフが選んでいます。尾道旅の思い出の味も、全国からご注文いただけます。また、季節ごとにおのまる商店が提案するおすすめ商品は、贈り物にも、ご家庭用にもおすすめの品々です。

https://onomaru.stores.jp

おのまる商店オリジナルアイテムも
オンラインで購入できます

尾道駅店舗情報

※新型コロナウイルスの影響により、営業時間が変更となっております。詳しくは各店舗にお問合せください。

2F ONOMICHI TOM'S SANDWICH & BAR

0848-29-9332　11:00-18:00〈L.O. 17:30〉
toms_onomichi

2F エムスリーホステル

0848-29-9330　［チェックイン］15:00-22:00
https://m3hostel.com　［チェックアウト］10:00
m3_hostel

1F おのまる商店

0848-29-9334　10:00-18:00〈カフェ L.O. 17:30〉
http://onomaru.com
onomaru_shouten

1F 食堂ミチ

0848-29-9337　［平　日］昼 11:00-14:00
夜 17:00-22:00
［土日祝］11:00-22:00
michi_onomichi

1F セブン-イレブン ハート・イン JR 尾道駅店

0848-22-4521　5:30-23:30

1F 観光案内所

0848-20-0005　9:00-18:00
休 12／29〜12／31　English OK

発行元：西日本旅客鉄道株式会社 尾道駅、TLB株式会社、株式会社ジェイアールサービスネット岡山、一般社団法人尾道観光協会
企画・編集：クラモトマオ、TLB株式会社 熊谷舞　デザイン・撮影：ツネイシLR株式会社 長友浩之

2020年9月7日発行　本誌の内容の無断転用・複製を禁じます。

表紙：つるけんたろう　イラストレーターetc。尾道のゲストハウスあなごのねどこのデザイン・設計・自作工事・寝床長（店主）。 エッセイ「0円で空き家をもらって東京脱出！」